

SCHOOL
HEALTH
EDUCATION

健康教室

11
2009・NOV.
第708集
東山書房

Information PLAZA

- 小児肥満 その傾向と対策
- ナルコレプシー

特集

電子メディアが
子どもにも与える影響



連載

- 保健室や教育相談で使えるカラー&アートセラピー
- みんなが資源 みんなで支援
- こばたてるみのエンジョイ! 食育
- 特別支援学校(知的障害)の健康教育PART 2
- オイカワ流Part 2 保健学習のススメ
- 養護教諭を中心としたストレスマネジメント教育
- 芹沢俊介⇄須永和宏 往復書簡
- ビジュアル探検:からだと健康の小宇宙
- 保健室掌編小説 おばあちゃんイスの小話
- 【リレー連載】私の実践・事例ファイル
- 新・みんなの保健室

特別支援学校の歯科保健指導

特別支援学校の実践

名古屋市立守山養護学校・養護教諭 高木 洋子 山本 恵里
学校歯科医（名古屋市守山区・開業） 鈴木 俊夫

はじめに

本校は、名古屋市の北東部に位置し、知的障害のある児童生徒が通う特別支援学校である。小学部、中学部、高等部が設置され、現在191名の児童生徒が在籍し、学んでいる。

本校の児童生徒のおよそ半数が自閉症であり、その他に染色体異常やてんかんなどの障害がある児童生徒も在籍している。児童生徒の障害や疾病は様々で、一人一人、個に応じた対応が必要となっている。

今年度、本校では健康診断の事前学習・実施方法の工夫に力を入れてきた。その中から、歯科検診の実施方法を中心に、本校で行っている歯科保健指導の実践を報告する。

歯科検診の実態

歯科検診は、口を大きく開けたままの姿勢を要求されるため、苦手な児童生徒が多い検診の一つである。まぶしいライトやきらっと光る歯鏡が恐く、学校歯科医に顔を近付けることが難しかった

り、いすに座っても口を開けることが難しかったりする児童生徒が多く見られる。さらに、強くからだを動かして抵抗したり、からだを後ろに引いてしまったりするため、検診には大変時間が掛かっていた。

歯科検診の工夫

そこで、児童生徒が見通しを持ち、上手に歯科検診を受けることができるように以下の工夫を行った。

①事前学習

「検診が行われる日」「どの先生がくるのか」「どんな検査をするのか」を、ほけんだより（資料1）に載せ、配布した。担任より、児童生徒の実態に応じて、朝の会や帰りの会の時間を利用して、事前指導を繰り返し行った。

②検診の工夫

検診では、「手はおひぎシート」を作成し（写真1）、活用した。これは、布にミトンを2つ付けたもので、手の出し入れが容易にできるポケットになっている。この「手はおひぎシート」を児童生徒のひざの上に置き、歯科検診を受けるよう

資料1 歯科検診について（ほけんだよりから抜粋）

し か けんしん
＜**歯科検診**＞

すすきせんせい
鈴木先生がきます。むし歯
や歯肉炎がないか口の
中をみます。
せんがくる
全学部：4月30日



すすきせんせい



まぶしいライトや鏡
を使いますがこわく
ありません。大きな
口をあけましょう。

にした。しかし、手を置く位置がわかって、歯鏡が近付いてくると恐怖を感じ、からだを後ろに引いてしまう児童生徒がいた。

そこで、学校歯科医にご協力いただき、学校歯科医のひざの上に「手はおひざシート」を置くようにした(写真2)。すると、前へ手を置く位置が決まり、からだを後ろに引くことがなく、スムーズに検診を受けることができた。

口を開けることが上手にできなかつたり、歯鏡をかんでしまったりする児童生徒には、歯鏡の代わりに歯ブラシを使って検査を行った。給食後に歯みがきを行っている本校では、歯ブラシを見せると反射的に口を開ける児童生徒が多いため、この方法で歯科検診をスムーズに行うことができた。

本校の歯科検診後の実態

歯科検診の結果を見ていると、う歯(むし歯)や歯肉炎ができて、歯科治療には行かず、そのまま放置してしまっている児童生徒が半数ほどいる。

放置してしまう理由として、全身疾患の治療が歯科治療より優先することや、歯科治療が困難な場合が多く、受診を敬遠してしまうことがあげられる。また、児童生徒の中には痛みを痛みと感じないため、「痛い」と訴えることがなく、歯科検診結果を渡しても、まだ大丈夫だとそのまま放置されてしまうこともあると考えられる。

このようなことから、低年齢のうちからう歯や歯肉炎の予防が大切だと考え、本校では次のような歯科保健指導を行っている。

各学部の歯みがき指導の実践

給食後、歯みがき指導を全校で実施している。自宅から歯ブラシとコップを持参し、給食が終わった学級・学年から洗面所、あるいは教室で歯みがきを行う。小学部のころには、口を開けること



写真1 手はおひざシート

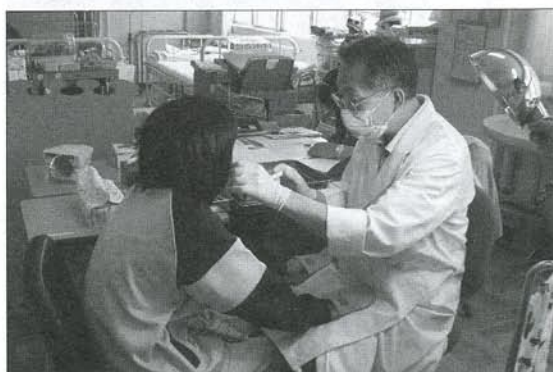


写真2 「手はおひざシート」を歯科医の先生のひざに

ができなかった児童が、中学部・高等部では、自分で歯みがきを行う姿が見られるようになる。低年齢のうちから、歯をみがくことに慣れさせ、毎日続けることが大切である。

児童生徒の実態や発達段階に合わせて、本校で行っている歯みがき指導について紹介する。

①小学部の実践

小学部では、歯ブラシを口の中に入れることから始まり、その後、歯みがきを習慣付けるための指導を行っている。食事をした後の歯みがきの大切さを、大きな歯の模型を用いて説明したり、簡単な劇をして児童に見せたりした(写真3)。その後には、歯をみがく練習をし、歯みがきはとても楽しくて、大切なことなのだと言指導している。

小学部の児童は、まだ自分で歯をきれいにみがくことができないため、仕上げみがきのポイントを「ほけんだより」に載せて、配布し、保護者や担任に仕上げみがきの啓発をしている。そのため、



写真3 寸劇を行っている様子



写真4 模型を使って歯垢を取り除く練習

給食後の歯みがきでは、まず自分で歯をみがいた後、担任のところへ歯ブラシを持っていき、仕上げみがきをお願いする児童の姿が見られるようになってきている。

② 中学部の実践

給食後の歯みがきを毎日続けているため、食べた歯をみがくことは習慣になっている。しかし、みがく場所が一箇所に限られていたり、みがく時間が短くなってしまったりするケースが見られるため、中学部では、すべての歯をまんべんなくみがき、みがき残しをなくすことを目標としている。

大きな歯の模型にスノースプレーをふりかけ、汚れに見立てたものを歯ブラシでこすり、汚れを取ることを練習できるような活動を行った（写真4）。その後、歯をみがく順番と時間を決めて、音楽に合わせて歯みがきをする練習をした。洗面所に歯をみがく順番を描いたポスターをはることで、生徒がポスターを見ながら、自ら進んで歯をみがく姿が見られるようになった。

③ 高等部の実践

高等部では、ほとんどの生徒が自主的に歯をみがくことができる。「卒業し、社会へ出ると、自分の歯は自分で守る必要がある」ということを伝え、自分の歯に合った歯のみがき方を習得することを目的とし、次のような染め出し指導を行っている。

綿棒に染め出し液を浸して、歯に塗って歯を染め出す。このことによって、しっかり歯をみがいたつもりでも、みがき残しがたくさんあることに気づかせた。そして、どのようにみがけば、歯がきれいになるかを指導している。

また、染め出された口の中と歯をみがいて、きれいになった口の中の写真を使って、一人一人に合わせた「ほけんだより」を作成・配布し、家庭でも、みがき残しなく、歯をみがくことができるように、保護者に協力をお願いしている。

まとめ

様々な障害があり、しかも小学部から高等部まで、年齢の幅がある児童生徒の在籍する特別支援学校は、歯科検診一つにおいても学部ごと、学年ごとで様々な工夫が必要である。歯科保健が日常生活習慣として定着するよう、学校だけでなく家庭においても実践できるような指導の方法を考えていかななくてはならない。今後も、児童生徒や保護者に歯の大切さを伝え、学校・家庭・医療機関が連携を図りながら口腔の機能改善・回復や口腔内の病気の予防に努めていきたい。

● 参考文献

- 1) 堀江まゆみ：発達障害のある人の診療ハンドブック（医療のバリアフリー）、白梅学園大学
- 2) 文部科学省：学校歯科保健参考資料「生きる力」をくむ学校での歯・口の健康づくり、日本学校歯科医学会